



since2005
第239号
2025年7・8月号

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

うえまち新聞
web版



「上町台地」名所図会

第34回

国立文楽劇場
(中央区)



NPO法人まち・すまいづくりは、2024年に、創業20周年を迎えました。

これを記念し、「勝ち虫」の吉祥文様、トンボくしの伊勢型染めオリジナル手ぬぐいを販売しています。
詳細・お問い合わせは、NPO法人まち・すまいづくり(TEL:06-6779-7222)までお問い合わせください。

ユネスコの無形文化遺産にも指定される文楽は、大阪が世界に誇る芸能と云って間違いありません。人形劇は世界中にありますが、人形1体を3人が操るのは文楽だけ。それによって生み出す微妙な動きと、太夫の語り、三味線の伴奏によって登場人物の性格や心情を見事に表現します。「文楽は高度な総合芸術」と評した人もいますが、一度、文楽を鑑賞すればそれも納得できるでしょう。

そんな文楽の拠点が国立文楽劇場です(写真左)。設計は世界的建築家・黒川紀章で、1984(昭和59)年に完成しました。黒の格子模様を基調にした伝統的な和風のデザイン。正面の中央上部には櫓を模したでっぱりがあり、他にも竹矢束、唐破風など昔の劇場を彷彿とさせる意匠がそこそこ見られます。林立する銀の柱は、近松作品などに登場する遊郭の格子をイメージしているのでしょう。

劇場機能のほか、中は人形遣い、太夫、三味線弾きの養成所にもなっています。資料室もあって自由に見学できるので、覗いてみましょう。そして、少しでも興味をもったら文楽自体を見ることをお勧めします。

見過ごされがちですが、劇場前に「二ツ井戸」のモニュメントがあります(写真右)。並んで掘られた2つの井戸は珍しく、「摂津名所図会」や織田作之助の『夫婦善哉』にも登場する名所でした。本来の場所は100メートルほど北で、昭和の終わりまであたりは二ツ井戸町と呼ばれていたそうです。そうした趣ある町名は、できれば残して欲しかったですね。



正面上部には櫓を模したでっぱりが見える



摂津名所図会にも載る名所だった二ツ井戸

※名所図会(ずえ)とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※「うえまちweb」(https://uemachiweb.com/)連載の「上町台地」名所図会」より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。

中原文雄／写真

1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行／文

1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。



since2005
第238号
2025年7・8月号

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

うえまち新聞
web版



「上町台地」名所図会

第33回

摂津酒造跡
(住吉区)

いまや、世界5大ウイスキーのひとつに数えられる日本のウイスキーですが、本格的なウイスキーづくりが始まったのは1923(大正12)年のことでした。製造の指揮を執ったのは竹鶴政孝。彼と妻・リタはNHKの朝ドラ「マッサン」(2014年放送)のモデルにもなったので、存じの人も多いでしょう。

当時の竹鶴は寿屋(いまのサントリ)の社員でした(のちにニッカウイスキーを創業)。実は、寿屋に勤める前は帝塚山にあった摂津酒造の社員だったのです。住まいも帝塚山にありました。ウイスキーづくりのための英国留学も社命だったのですが、第一次大戦後の不況により、国産初のウイスキーを、という摂津酒造の計画は頓挫します。予定どおり進んでいれば、「国産初の栄冠」は上町台地の会社がついていた可能性もあったわけです。

さて、1964(昭和39)年に摂津酒造は宝酒造(いまの宝ホールディングス)に吸収され、その大阪工場となりました。しかし、73年に工場は閉鎖、神ノ木公園にある取水口跡がモニュメントとして残ります。また、顕彰碑(写真左)が地元のライオンスクラブの寄贈で建てられました。

一方、摂津酒造のあった場所から400mほど北にある帝塚山学院小学校(写真右)では、妻のリタが一時期、英語の先生を務めていました。古い卒業アルバムには「竹鶴先生」の写真も掲載されています。いまも上町台地は「ジャパニーズ・ウイスキーの源流」の名残をとめているのです。



神ノ木公園には取水口跡と顕彰碑が残る



竹鶴夫婦とゆかりのある帝塚山学院小

※名所図会(ずえ)とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※「うえまちweb」(https://uemachiweb.com/)連載の「上町台地」名所図会」より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。

中原文雄／写真

1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行／文

1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

らくごハローワーク

消防士



相羽秋夫の

第44職

すわ大事だ!『火消の唄』と逢引!

酒屋で、1人の男が静かに立ち呑みをしている。その時、けたましく半鐘(はんしょ)う)が鳴らされた。「火事だ!」と声高に叫んで人々が火元の方角に走って行く。

この仕事に従事する人を鳶(とび)の者と称した。鳶口(とびくち)と呼ばれる、棒の先に鳶の口端のような鉄製の鉤(かぎ)をつけた道具を持つことからその名前が付いた。鳶口は物をひっかけたり運んだり壊したりするのに用いた。

仕事柄、威勢が良く気性の荒い人が多く、江戸末期に起った、鳶の者と力士が衝突して負傷者99人を出した「め組の喧嘩」は、講談や歌舞伎に脚色されて、現代人にも記憶に残る。

明治初年に、これらの組織は警察行政の一部とされたが、第2次大戦後に独立して独自の体制を確立した。消防以外にも救急救命も主要な分野になった。それから、恋の火以外の消火に専念している。



火事と喧嘩(けんか)は江戸の華——と言われるぐらいい、火事は江戸の町の名物(なづか)だった。家屋が密集しているのです。火が出ると大火になりやすい。振袖火事と言われた明暦の大火(1657年)や、八百屋お七で知られる天和の大火(1683年)など、数多くの大火が江戸八百八町の広い街角を焼き尽くした。

江戸幕府は、若年寄直属の旗本や御家人を主体とした「火消組」を1658年に設置した。与力6騎、馬に乗った役人、同心30人、火消人

夫数名が屋敷に定住する「定(じよう)火消」と、大名が各自の藩邸(上屋敷・中屋敷・下屋敷など)の出火の消火に当たる「大名火消」で、江戸の町を火事から守ろうと腐心した。

また1718年、江戸町奉行・大岡越前守忠相の主導で、町人が自主的に消防に従事する「町火消」も発足させた。いろは47組を編成し、江戸の町にくまなく配置した。町火消は後に1組増えて48組になった。

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日))

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪中之島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

「レイ・ヴァイトン 『ビジョナリー・ジャーニー』展」

大阪市中の島美術館 7月15日(火)〜9月17日(水)

特別展「CELA DONー東アジアの青磁のきらめき」

特別展「正倉院 THE SHOWー感じる。いま、ここにある奇跡」

大阪歴史博物館 開催中(8月24日(日

第18回 夕陽丘うえまち写真コンテスト 受賞作品

住吉大社～一心寺・下寺町～大阪城までの上町台地の風景や
そこで暮らす人々をカメラに収めてください。
緑豊かで、歴史と文化いっぱいの上町台地。
その風景や、そこに暮らす人々の姿を写真という一篇の「詩」にしたいと。
写真を通じて、この地域の素晴らしさを再発見できる、そんなコンテストであり
たいと願っています。

主 催：夕陽丘うえまち写真コンテスト事務局
応募総数：123名・292作品（一般234作品、学生58作品）
審 査：江口保夫（フォトキョイ）
平田秀瑞（一心寺 執事）
清水ミサコ（ラメカカメラ堂）
田中一泉（日本写真映像専門学校講師）
高口真吾（夕陽丘うえまち写真コンテスト事務局長）

審査員総評

審査委員長 江口保夫（フォトキョイ） まずは、入賞おめでとうございます。
今年のコンテスト応募点数が300点ほどのことで嬉しいですね。申し込み
締め切り日を2か月遅らせ、なにわ人形フェスの応募点数も増加で嬉しい限り
です。今年の応募写真の内容は例年になく幅広くレパートリーに富み、楽しく
審査させていただきました。全般的に今までより作品のレベルは高く、今回受
賞された作品の中には全国版の写真コンテストでも上位入賞できる実力のある
写真もありました。また、今回入賞されなかった作品の中にも他のコンテスト
では入賞間違いなしと思われる写真も多数見受けられました。今年残念だっ
た皆様、来年こそ頑張ってください。皆さんの写真を撮って入賞を狙ってください。お
待ちしております。
審査委員 清水ミサコ（ラメカカメラ堂） 王道作品、独特な目線の作品、抒情
的な作品、人物模様作品など、それぞれ切り口の違う作品が受賞されました。
受賞作品には「こういう作品にしたい」という確固たる意志や、「こんな風景を
撮影したくて、こんな風にプリントしてみよう」という創意工夫があるように思
われます。つまり、自分にしか応募できない作品であるかどうかが重要なので
す。もっとも受賞作品はアンソロジーのようなもので、その年にどんなテイスト
の作品が応募されたか、同じ傾向の作品が他に存在するか、という点にも左右

され、正直、運もあります。今回、「こんなに素敵な作品を応募したのになぜ選
ばないのだ、審査員たちは！」という方が恐らく数名いらっしゃると思いますの
で、ぜひ次回、リベンジしてくださいね。七坂賞と人形フェス賞が狙い目ですよ。
審査委員 田中一泉（日本写真映像専門学校講師） 今年は例年とは傾向が
変化し、豊かな視覚表現を目にすることが叶い、とても嬉しい気持ちで満ち溢
れました。審査時では毎年、頭を悩ませておりますが、今年は例年になく長考
する時間がありました。それは、冒頭でも申し上げた豊かな視覚表現が多くあ
ったからです。写真は技術的な視点のみではなく、作者の頭の中のイメージがど
れだけ視覚表現として立ち上がっているかが重要になっています。また、写真
の良さと価値基準とは時代とともに変化して行きます。学生時代の何気ない
集合写真でも5年、10年と月日を重ねるごとに集合写真から想起される学生時
代の記憶は美化され、懐かしく感じると思います。受賞された作品は審査員の
皆様と悩みながら、選出させていただいた素晴らしい写真です。それは5年、
10年と月日を重ねることで、これらの写真は深みが増していくと考えたからで
す。そのような作品に出会うことができたこと、応募者の皆様に感謝申し上げ
ます。また、来年もまだ見ぬ写真の素晴らしさに出会えることを、心から楽しみ
にしております。

最優秀作品賞・特別賞



「祝 開店」

増永良二

ずいぶん年季の入った壁面。その足元に並ぶ、色とりどりの花。いまは昭和？ 平成？
江口保夫（フォトキョイ）以下江口 最初にこの写真を拝見したとき、何〜？ これ〜？ と思っただけ
で素通りでしたが、2度目でビックリ！ 古い家の背面？ 前にお祝いの生花が一杯〜！？ さらに
中央にお兄さんの顔が……？ よく見ますと本物ではなく花の送り主でしようか、その方の顔写真〜！？
何とも不思議な傑作写真です。

清水ミサコ（ラメカカメラ堂）以下清水 一目見た瞬間に、プフッと笑ってしまいました。理屈を色々並べ
たてるとは可能なのですが、一言で表現すれば「ただ面白い」に尽きます。この場所を見つけたのはお
見事、この構図で撮影されたのはお茶目、このコンテストに応募されたことには感謝です。

田中一泉（日本写真映像専門学校講師）以下田中 何気ない街のランドスケープ写真ですが、よく見
るとお祝い花がたくさん添えられています。そのお祝い花の中には立札やお花だけではなく、開店した店
長？と思われる男性の顔があります。この1枚は、私たちが日々同じことを繰り返している中にも変化
があり、それは誰かにとっては変え難い瞬間であることを示唆しています。また、これらのお祝い花から
は、贈られた方から贈り先への感情を示すモノであると同時に、贈り先の方が多くの人に愛されている
ことを想像することができます。私たち鑑賞者は写真を通じて、当たり前の審美性に気が付くことができ
るのです。

一心寺賞



「今日も一日 ありがとうございました」

栗原正隆

日暮の後、だんだんと辺りは暗くなる時間帯。ブルーに染まってく外、薄暗さと、大本堂から
洩れる温かみのある灯りのバランスがとれる僅
かな時間の美しさに魅せられて。お参りの方の
うしろで私も心の中で呟いた…。今日も一日あり
がとうございました。

田中 本作は色のコントラストが非常に美しい
写真です。写真で重要なのは「光」「色」「形」
です。それら3点のバランスが素晴らしく、目をひく1枚
になっています。また、画面いっぱいを建
物のみにすることでグラフィカルな視覚効果を得る
ことにも成功しています。

七坂賞



「清水坂の笑顔」 ソラニ

陽の差す坂がキレイで記念撮影しました。

江口 一見普通の記念写真〜！？ と思いきや、清水坂を背景にカメラを持った素敵な笑顔……。柔らかな夕方の光と影が効果的〜！
記念写真の域を遥かに超えている微笑ましい作品です。

人形フェス賞



「元気はつらつ」

上原弘士

満開の桜のもと、子供達がとても楽しそうに人形舞を見ていました。

清水 空・桜・人形・子供の笑顔・遠巻きながら楽しむ大人たち。人形フェスの幸せな時間が凝縮して
いますね。大勢の子供たちの様々な表情が見える良い撮影位置です。でもね、大人も楽しんでいる
のだよ、子供たちのようにもって喜んでいいのだよ、感じさせられました。

青春賞



「観光客ブレイク」

横田虎太郎

大阪城へ撮影に行った時、休憩中にとれた奇跡の1枚です。

田中 非常にシュールな秀作です。この写真を見た時、「なぜここで?」「ボケている子はお友達?」など様々な疑問が浮かびました。若さ、とは説明がつかないことでもあると考えています。それはコントロールできない程のエネルギーに溢れ、時には理性を失い感情的になる。など、さまざまな合理性を欠くことだと思います。私はそこに美しさが潜んでいると考えています。本作はだからこそ、青春賞にふさわしいのです。



「暮色のなかで」

吉岡柊晴

夕暮れの少し前に、天王寺公園のある通りで観光客と思いき人が何人も帰って行くのを見ました。一日の終わりに楽しげに会話する人々からはどことなく楽しさと物悲しさが感じられ、その雰囲気につられて漠然と撮った写真です。

清水 今回はクセ強&色綺麗作品が多くて、モノクロ作品は不利だったと思いますが、その中で頑張っていましたよ、この作品。構図とか人の並びとか影の位置とか良いと思います。楽しさと物悲しさを感じたそうなので、楽しさもって感じたかったです。コントラストのせい？

上町台地パンフ賞



「夏の眼差し」

岡本隆雄

初めて行った生國魂祭。子どもさんから大人までたくさんの枕太鼓が奉納されていました。真剣な眼差し、激しい動き、エネルギーをたくさんいただきました。

江口 生國魂祭のスナップ。スローシャッターの日中シンクロ撮影でしょうか？ いい表情を動きのある写真に仕留められました。



「桜の下で」

木下修二

良い天気で出かけたところ、大勢の人が桜を愛でていた。楽しそうだった。

田中 タイトル通り、桜の下にある人々のストーリーを感じられる写真です。優れた写真は時に1枚でも映画を見ている感覚になる時があります。本作では画面内に偶然、素晴らしい配置で被写体が立ち、桜の木を中心にそれぞれのストーリーがあることが感じられます。意図せず、素晴らしい構図が目の前で起きる瞬間、それは滅多に見られる光景ではありません。



「晩秋の池」

中所輝籌

鳥が飛び立つのを待って写す。

江口 茶臼山南の池ですね。私も一心寺に行くときは必ずここを通ります。きれいな噴水の向こうに洗ひ紅葉……。素敵な雰囲気を感じてきた。本作では画面内に偶然、素晴らしい配置で被写体が立ち、桜の木を中心にそれぞれのストーリーがあることが感じられます。意図せず、素晴らしい構図が目の前で起きる瞬間、それは滅多に見られる光景ではありません。



『声を合わせて 「えいえいおー！」』

田中雅之

「吉祥寺」で育行された「大阪義士祭」、地域の人たちが盛り上げる上町台地のお祭りです。四十七士には足りませんが、ちびっ子義士たちは元気に勝つ闘を上げて、時代行列に出発して行きました。

清水 非常にベタなテーマですが、これを子供たちにやらせたら選ぶしかないですよ。さすが田中さん、よくツボを心得ていらっしゃるという作品です。皆さん表情がとても良いのですが、右から三番目の子の剣を口にくわえている様が、子供のリアルっぽくて好きです。

特別賞



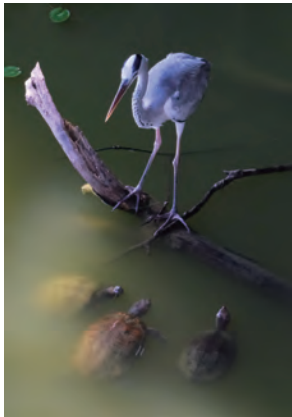
「夏雲」

小林謙一



「なかよし」

藤井雅春



「池上の説法」

山根淳市

※作品のコメントは応募者の意図を尊重し、原文通り掲載しております。

第19回夕陽丘 うえまち写真コンテスト 作品募集中～ 2026.5.31

住吉大社～一心寺・下寺町～大阪城までの上町台地の風景や、そこで暮らす人々をカメラに収めてください。募集要項はホームページにて。応募用紙のダウンロードなども可能です。

夕陽丘うえまち写真コンテスト

スマホ賞 作品募集

大阪城～下寺町～住吉大社の風景や人、出来事をスマホで撮影し、メールで送ってください！応募方法など詳細はホームページにて。

夕陽丘 スマホ賞



公式HP

f

Instagram

【問い合わせ】
夕陽丘うえまち写真コンテスト事務局
〒543-0062
大阪市天王寺区逢坂2-6-13 B1F
一心寺シアター倶楽内
TEL:06-6774-2877 FAX:06-6774-4003
https://isshinji.net/photocon/18th/